

公共施設の明るい未来を考える市民ワークショップを開催！

ワークショップの目的

近年、公共施設の老朽化が問題になっています。厳しい財政事情の中で公共施設をどう残していくのか。市民のみなさんの身近にあり利用されている公共施設の将来について、真剣に考えなくてはなりません。本ワークショップではマネジメントゲームを通して楽しみながら市民のみなさんとともに考えるきっかけづくりを目指し開催しました。

■開催日時・会場

	日時・場所・参加者数	プログラム
第1回	日 時：平成 30 年 2 月 17 日（土） 午後 1 時～午後 4 時 場 所：岸和田市立福祉総合センター 参加者：17 名	・ミニ講演「公共施設・インフラの考え方」 ・30 年後の将来像とは？ ・公共施設マネジメントゲーム ・「配置計画」の発表
第2回	日 時：平成 30 年 3 月 3 日（土） 午後 1 時～午後 4 時 場 所：岸和田市立福祉総合センター 参加者：12 名	・ゲームの振り返り ・「岸和田市公共施設最適化計画」概要説明 ・グループワーク 「公民館の機能を考える」「施設配置シミュレーション」 ・講評

■参加者

岸和田市内在住の 18 歳以上の方

■ファシリテーター

桃山学院大学 経済学部 吉弘 憲介 准教授

☆吉弘先生のプロフィール☆

【専攻】

- ・経済政策

【研究テーマ】

- ・租税政策
- ・インフラの持続可能性

【主な活動】

- ・和泉市公共施設等総合管理計画策定委員会 委員
- ・和泉市公共施設マネジメント推進審議会 委員

第1回ワークショップ開催概要

第1回 内容と進め方

13:00～	オリエンテーション ● 「市内で一番好きな公共施設」について（自己紹介） ● 『公共施設・インフラの考え方』
13:30～	公共施設マネジメントゲーム ● 「30年後の理想の将来像の設定」 ● ゲームの説明・進行
14:30頃	— 休憩 —
15:20～	「配置計画」の発表
15:40～	ゲームの結果と講評
16:00	終了

ファシリテーターからの説明

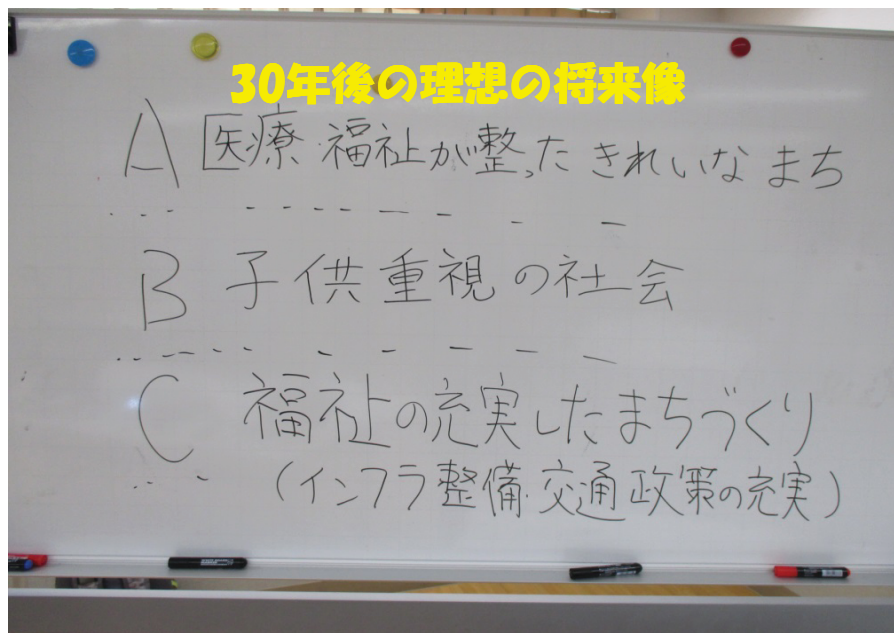


マネジメントゲームの様子

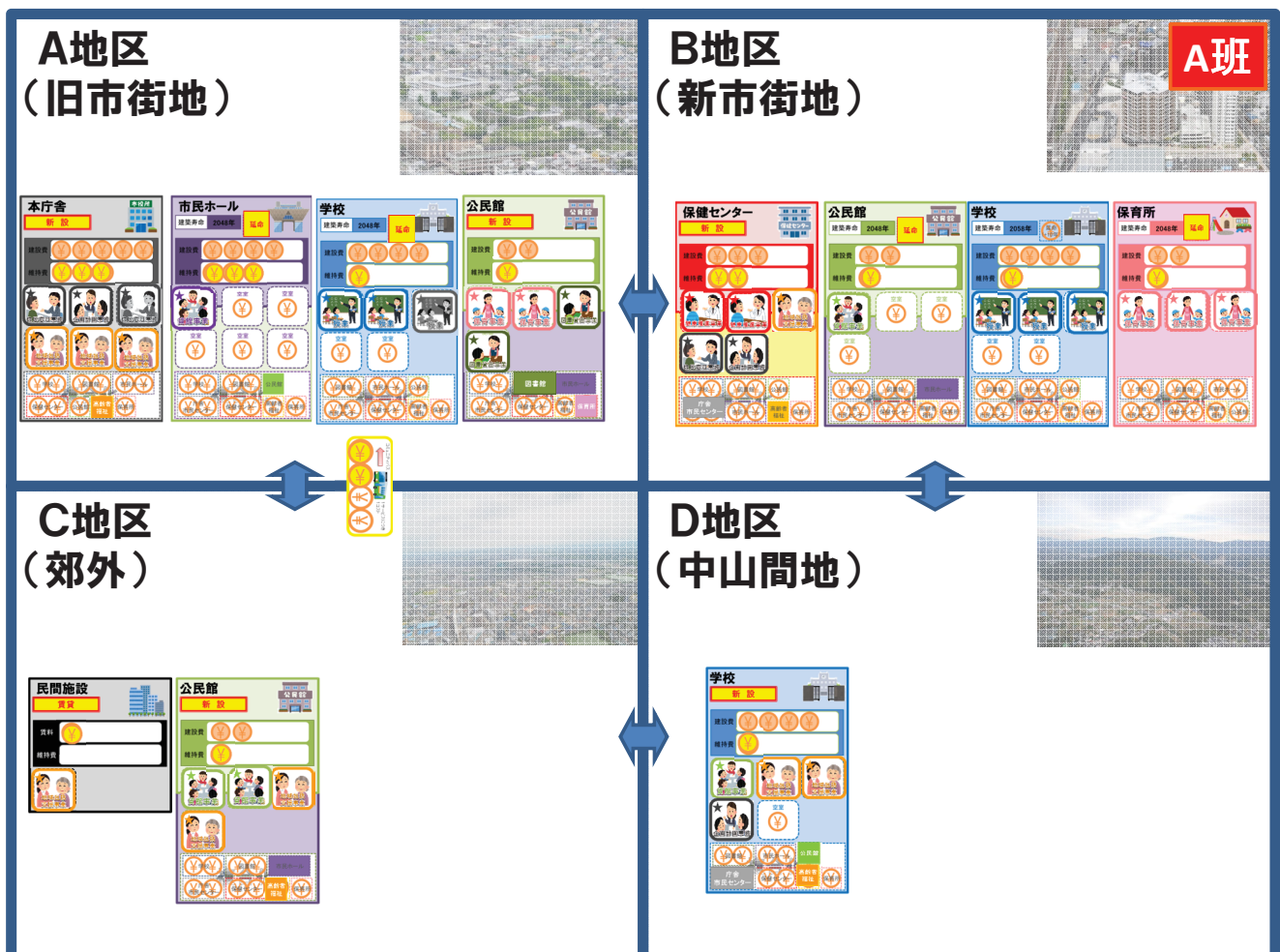


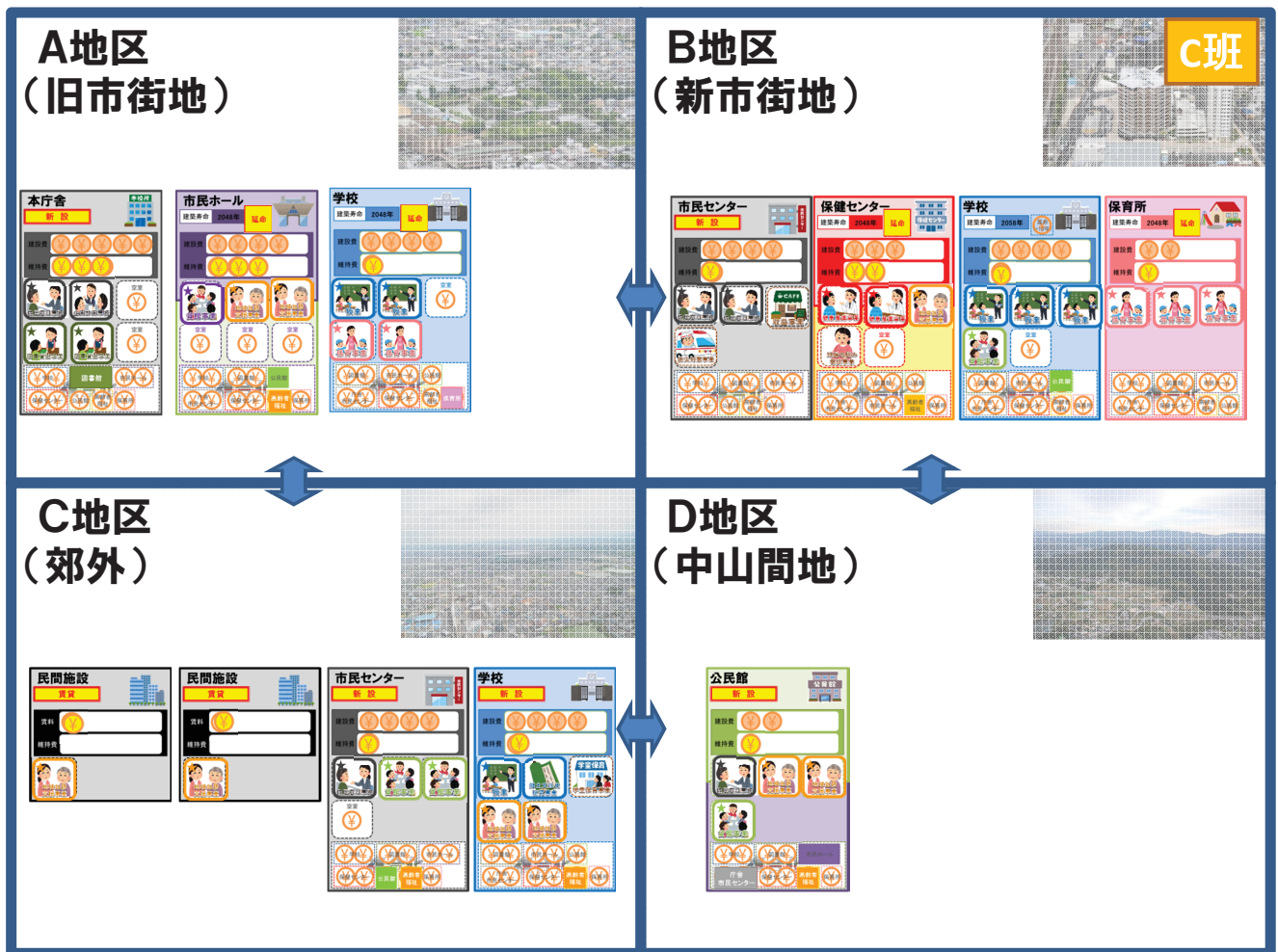
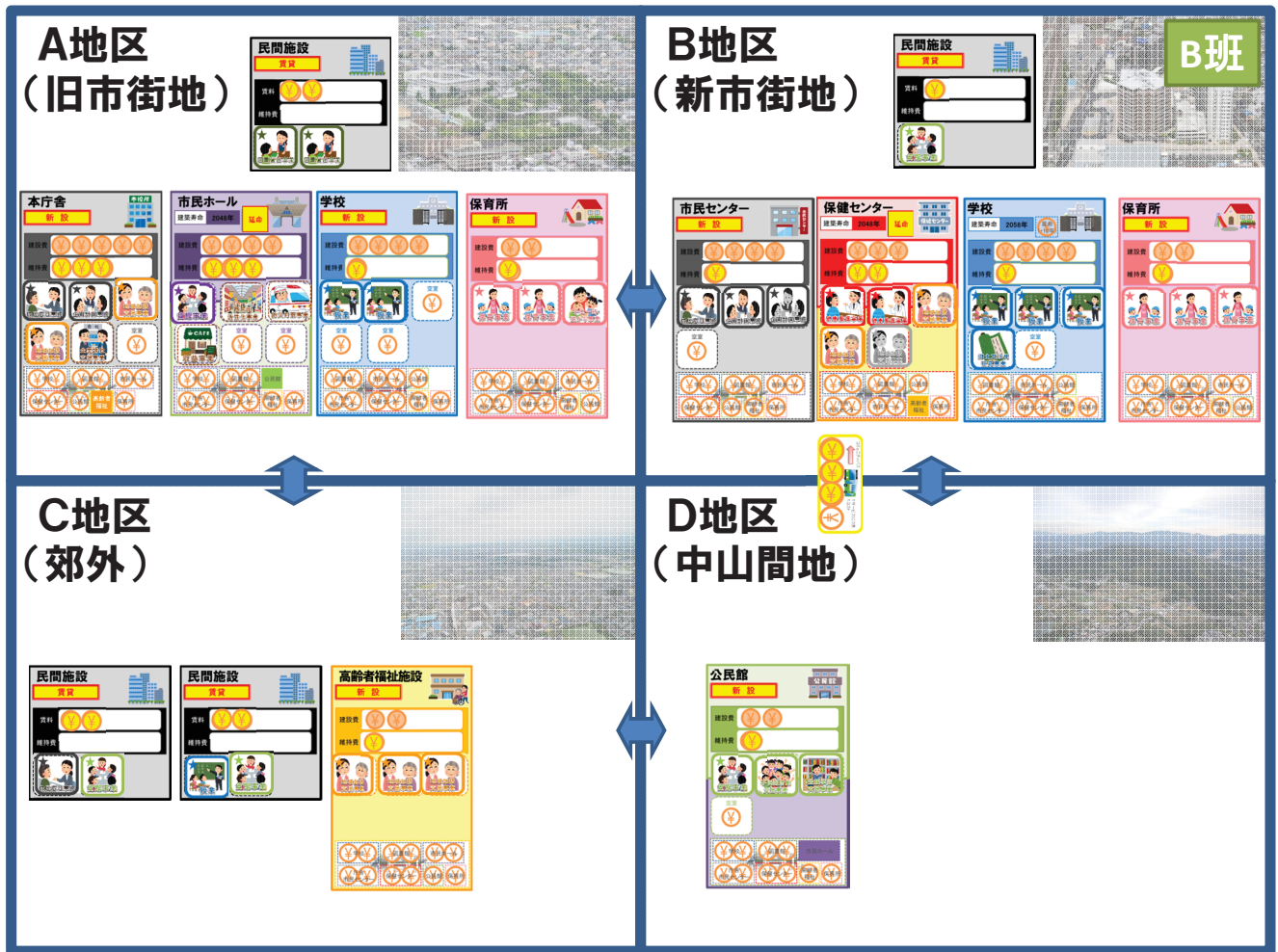
〈公共施設マネジメントゲームの概要〉

- 公共施設の配置計画を考えるゲームです。
- グループごとに、仮想のまちにおける「30年後の理想の将来像」を設定します。
- 限られた財源の中で、今ある施設の全てを同じ規模のまま維持することは不可能なので、複合化や廃止などの施設を再編していきます。
- 行政の担当部長になったつもりで、まちの理想の将来像を想像しながら、グループでの議論を通じて答えを導き出してください。



ゲーム結果





A 班

■30年後の理想の将来像

『医療・福祉が整ったきれいなまち』

■出された意見

- ・山間地は子どもが減っていくので、学校の余裕教室を利用して公民館を統合してはどうか。
- ・学校同士の統合は難しい。通学の問題が出る。
- ・テーマである医療と福祉を重視したいので、学校は統合してもいいのではないか。
- ・本当は各地域に各施設があれば一番良いのに。
- ・このような条件だと、どんどん施設が統合していくことになってしまう。

■発表内容

〈うまく出来なかった点〉

- ・収益事業をしていなかった。
- ・テーマとして掲げていた「医療・福祉が整ったきれいなまち」の理想に近づけなかった。

〈こうすれば良かった点〉

- ・もっと施設を廃止や統合をしていけば良かった。
- ・もっと民間施設を活用すれば良かった。貸館で利用をすれば無駄な維持費がかからなかった。部屋の利用は1つしかないのに、施設を維持しているといった状況が出てしまった。
- ・新築をやめて賃貸などにすれば良かった。

〈現実と理想のギャップ〉

- ・テーマの「きれいなまち」にこだわらなかった。
- ・税収がなくてうまくできなかった。

B 班

■30年後の理想の将来像

『子供重視の社会』

■出された意見

- ・サービス需要が少なくても、拠点となる施設は必要（中山間地）。
- ・あくまでゲームだからできるが、実際には難しい。

■発表内容

〈うまく出来なかった点〉

- ・予算が無くて、施設はあるものの空室がたくさんできてしまった。
- ・施設が旧市街地・新市街地に偏ってしまった。

〈現実と理想のギャップ〉

- ・子供重視の社会を目標にしたものの、社会情勢の変化では高齢者サービスの需要増への対応に追われて、需要の少ない郊外地や中山間地の学校を失くさざるを得なかった。
- ・予算の関係で民間施設に頼らざるを得なかった。

C班

■30年後の理想の将来像

『福祉の充実したまちづくり（インフラ整備・交通政策の充実）』

■出された意見

- ・施設削減に伴って人件費の削減は大きくなるはず。ルールに盛り込むべき。
- ・人件費に焦点を当てて考える必要がある。今回はゲーム上のルールに従っているが、実際は考え方に違いが出る。
- ・防災機能は大事。何かあったら地域で対処できるよう、各地域に機能を備えるべき。
- ・産業振興は大事。お金を生まないと。

■発表内容

〈うまく出来なかった点〉

- ・C地区（郊外）とD地区（中山間地）は施設統合が進んでしまったが、それにつれ、地域での重要機能、特に防災拠点がなくなっていった。
- ・施設を新設することや複合化することに視点がいき、人口減少に備えた対策が打てなかった。
- ・産業振興は収益を生むためには必要だと考えていたが、お金が無くなってくると真っ先に止める事業になってしまった。

〈こうすれば良かった点〉

- ・その年度での単体で考えがちだが、たとえばこの施設を今残せば20年後にはどうなるのかのビジョンを持つべきであった。

〈現実と理想のギャップ〉

- ・テーマに沿ったまちづくりをしたいが、必須事業だけが残り、他の事業を充実させる余裕がなかった。
- ・地域住民で施策や事業を考える市民力を重視すべきだが、お金が無いと公民館事業は廃止されやすくなり、そこに注力できなかった。

第2回ワークショップ開催概要

第2回 内容と進め方

- 13:00～ オリエンテーション
- 前回の感想・ひとこと（自己紹介）
 - 『岸和田市公共施設最適化計画』から市の考え方
 - 前回のゲームから振り返り
- 13:45～ 公民館の機能を考える
- 使い方の抽出
 - 機能の整理
- * 14:30頃 — 休憩 —
- 14:40～ 施設配置シミュレーション
- 15:45～ 全体のまとめと講評

前回の振り返り



市の考え方の説明



＜グループワークの概要＞

- 公民館はどのような機能があるかみんなで意見を出し合います。
- 公民館でしかできない機能や公民館以外でもできる機能のグループ分けをします。
- 現在の岸和田市にある公民館の2040年の姿をイメージして、今回は4館の削減目標を設定し、再配置のあり方をシミュレーションします。
- 公民館の機能についての意見をふまえ、施設の複合化による有効活用や廃止など多様な手法を用いて再配置モデルを検討します。

公民館の機能（使い方）整理 A 班

	現施設にある機能	将来を見据えた必要な機能	
市街地 （春木分館、八木、常盤、旭、中央、光陽、春木、大芝、城北、新条、大宮、箕土路）	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	（この施設になくてはならない機能） ●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所	（他の施設であってもよい機能） ●貸館 ●学習スペース ●防災避難所 《理由》 学校・町会館でできる
郊外 （山直、久米田、光明、山滝、天神山、葛城）	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所	●貸館 ●学習スペース ●防災避難所 《理由》 学校・町会館でできる
中山間地 （葛城上）	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●貸館 ●放課後子どもの居場所	●学習スペース ●防災避難所 《理由》 学校・町会館でできる

欄外：将来的に不要となる機能

公民館の機能（使い方）整理 B 班

	現施設にある機能	将来を見据えた必要な機能	
市街地 （春木分館、八木、常盤、旭、中央、光陽、春木、大芝、城北、新条、大宮、箕土路）	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	（この施設になくてはならない機能） ●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●行政サービス・窓口	（他の施設であってもよい機能） ●貸館 ●学習スペース ●防災避難所 《理由》 沢山の施設があり、他の施設利用が可能
郊外 （山直、久米田、光明、山滝、天神山、葛城）	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●行政サービス・窓口	●貸館 ●学習スペース ●防災避難所 《理由》 沢山の施設があり、他の施設利用が可能
中山間地 （葛城上）	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●行政サービス・窓口	●貸館 ●学習スペース ●防災避難所 ●放課後子どもの居場所 《理由》 利用者が少ない

欄外：将来的に不要となる機能

公民館の機能（使い方）整理 C 班

	現施設にある機能	将来を見据えた必要な機能	
市街地 (春木分館、八木、常盤、旭、中央、光陽、春木、大芝、城北、新条、大宮、箕土路)	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	(この施設になくてはならない機能) ●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●貸館 ●防災避難所 ●投票所	(他の施設であってもよい機能) ●放課後子どもの居場所 《理由》 学校で展開できる
郊外 (山直、久米田、光明、山滝、天神山、葛城)	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●貸館 ●防災避難所 ●投票所	●放課後子どもの居場所 《理由》 学校で展開できる
中山間地 (葛城上)	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所	●地域活動支援 ●生涯学習支援 ●高齢者の居場所 ●学習スペース ●放課後子どもの居場所 ●貸館 ●防災避難所 ●投票所	

欄外：将来的に不要となる機能

公民館の機能（使い方）整理

公民館の機能（使い方）整理

市街地 (春木分館、八木、常盤、旭、中央、光陽、春木、大芝、城北、新条、大宮、箕土路)	郊外 (山直、久米田、光明、山滝、天神山、葛城)	中山間地 (葛城上)
●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所	●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所	●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所

A 班

公民館の機能（使い方）整理

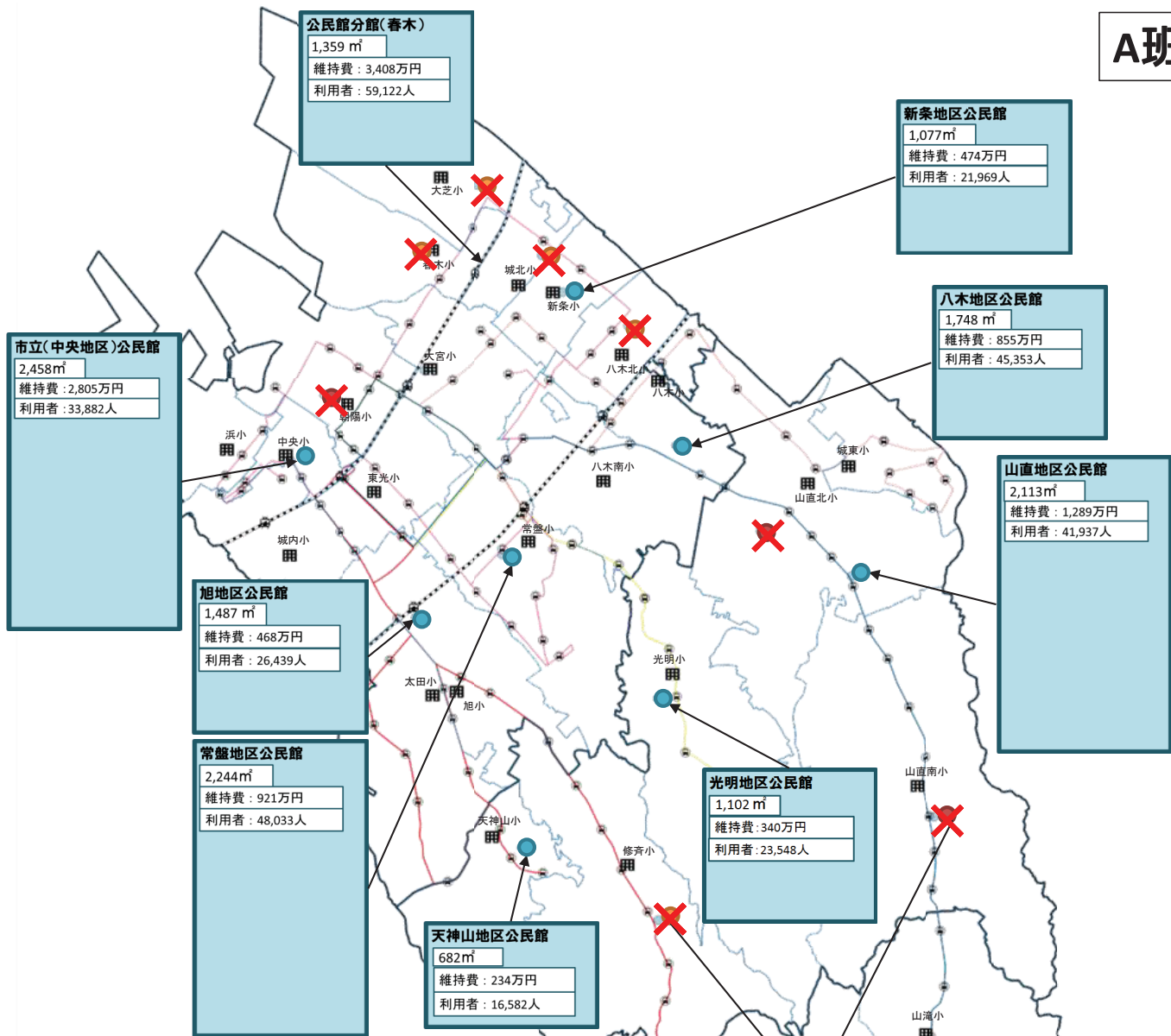
市街地 (春木分館、八木、常盤、旭、中央、光陽、春木、大芝、城北、新条、大宮、箕土路)	郊外 (山直、久米田、光明、山滝、天神山、葛城)	中山間地 (葛城上)
●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所	●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所	●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所

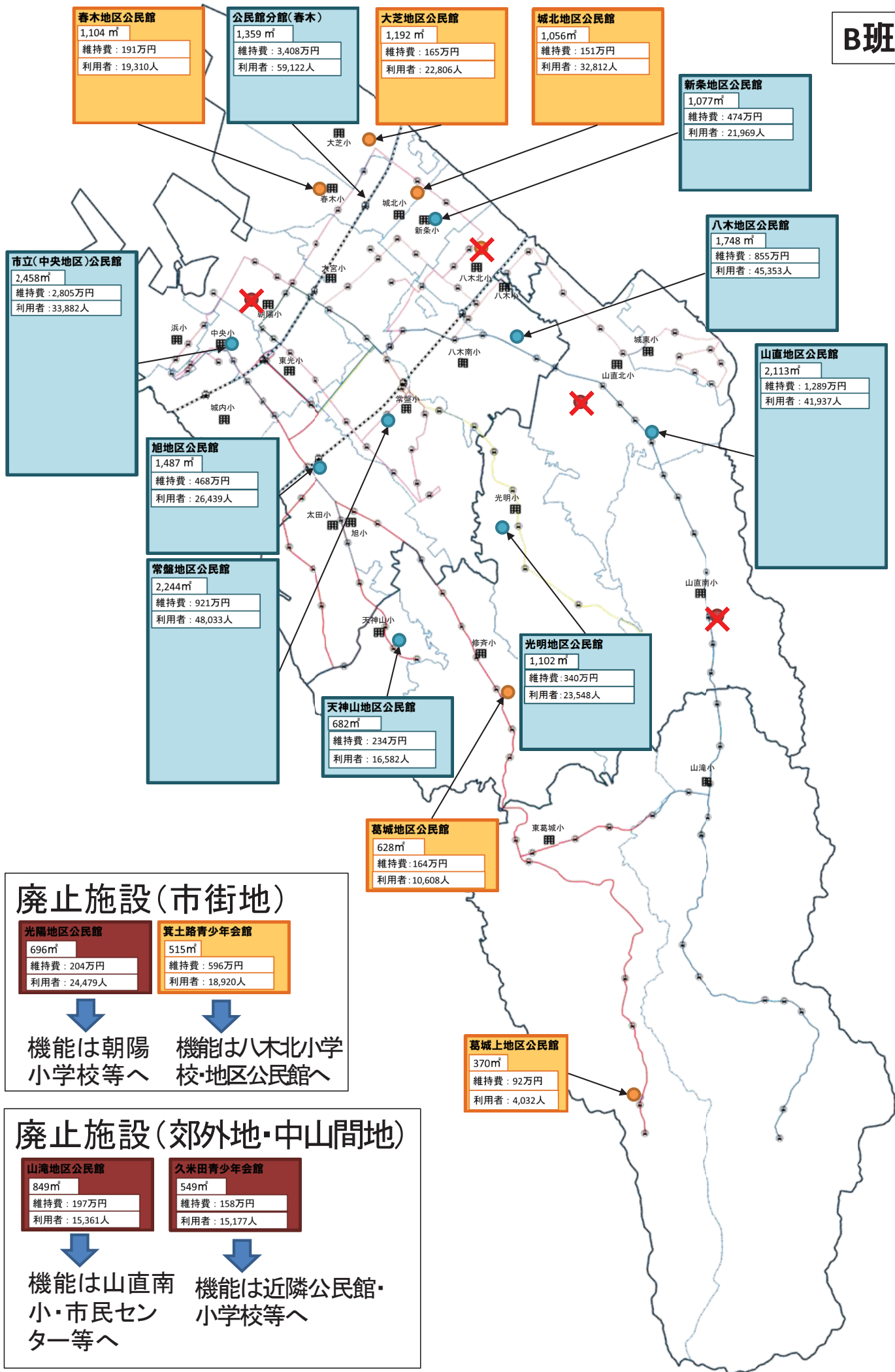
B 班

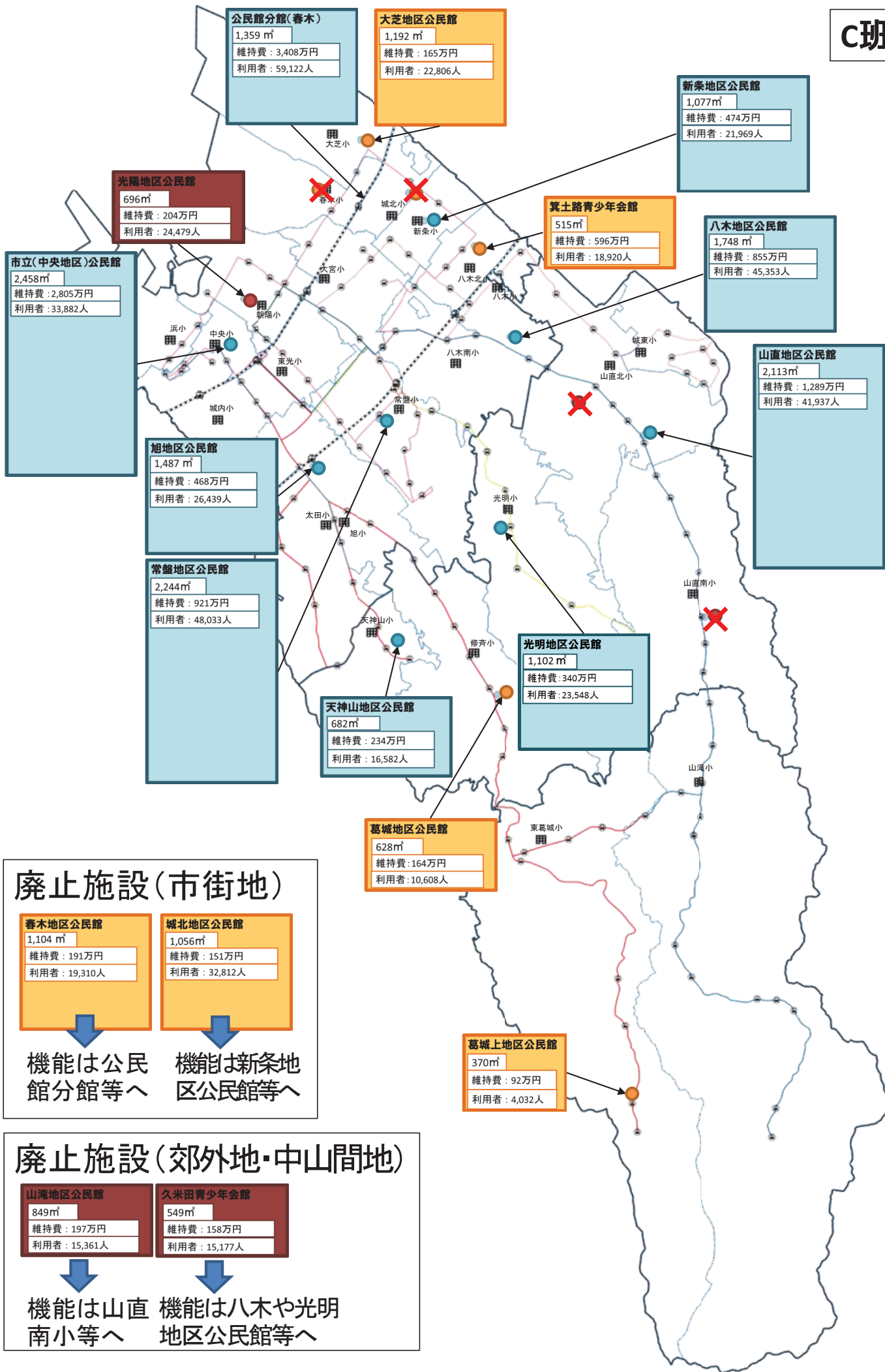
公民館の機能（使い方）整理

市街地 (春木分館、八木、常盤、旭、中央、光陽、春木、大芝、城北、新条、大宮、箕土路)	郊外 (山直、久米田、光明、山滝、天神山、葛城)	中山間地 (葛城上)
●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所	●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所	●地域活動支援 ●高齢者の居場所 ●放課後子どもの居場所 ●防災避難所

C 班







A 班

■提案内容

公民館9館を廃止し、複合施設を1館新設

市街地：光陽地区公民館、城北地区公民館、春木地区公民館、箕土路青少年会館、大芝地区公民館を廃止。

郊外地・中山間地：久米田青少年会館を廃止。

3館集約建替え（山滝地区公民館、葛城地区公民館、葛城上地区公民館）、その中に市民センター機能と防災の拠点としての機能をつける。

■主な理由

- ・まず、寿命の来る建物をどうするか考えた。
- ・小学校区ではなく中学校区単位で考えた。

①久米田青少年会館の廃止

老朽化している。機能は、近隣の学校で代替可能。

②山滝地区公民館、葛城地区公民館、葛城上地区公民館の集約建替え

葛城上地区公民館の場所は避難場所として逆に危険があるように思える。避難場所として適した3館の中心辺りに、市民センター機能と防災拠点の機能を備えた複合施設を新設する。

③市街地の公民館

市街地の老朽化した公民館5館を廃止し、近隣の公民館・学校に機能移転する。

市民センターを併設していないところは、最終的に廃止にすると良い。個人情報などを取り扱う場合は市の管理の方が良い。

■その他(課題等)

- ・公民館は何をしているところか分からないので入りづらい。公民館をもっと利用価値のあるものにするべき。
- ・公民館を利用しているのは同じ人ばかり。
- ・避難場所は学校でも代替可能。
- ・中山間部はもともと建物が少ないので貸館機能は他ではできない。空き家の活用ができれば解消されるかもしれない。
- ・究極の話をすれば、全ての機能が公民館以外でできるのではないか。
- ・名前は『公民館』となっているが、やっていることは他の施設でもできるから公民館はいらないのではないか。しかし、利用している人は納得しないだろう。
- ・子どもは行動範囲が限られているので子ども関係の機能は校区内にあった方が良い。
- ・代わりに町会館の利用も考えられる。
- ・町会館の利用にはいくつか課題がある。例えば、まつりの時期は利用できない、町外の人には利用しにくい、町会に入っていない人が最近多いので、町会費払っていない人には使わせないとするのかどうか。
- ・学校なら町会館の課題も解決できるのではないか。しかし、不審者等の問題が出る。
- ・学校は不審者等の問題からいつも鍵をかけているので、突発的な災害など起きれば避難したくてもすぐできないのではないか。

B 班

■提案内容

公民館 4 館を廃止

市街地：箕土路青少年会館、光陽地区公民館

郊外地・中山間地：久米田青少年会館、山滝地区公民館

■主な理由

- ・基本的に、老朽度を優先して 4 公民館を選択。

① 久米田青少年会館

市内の他の公民館より老朽化しており危険性が高く、利用者も少ない。

機能は、近隣の山直北小学校・山直市民センターで代替可能。

② 山滝地区公民館

市内の他の公民館より老朽化しており危険性が高い。

機能は、近隣の山直南小学校、山直市民センターで代替可能。

③ 箕土路青少年会館

市内の他の公民館の中では老朽化が進んでいる。

借地をしているため、他施設に比べて維持費が高い。

機能は、近隣の八木北小学校や八木市民センターで代替可能。

④ 光陽地区公民館

市内の他の公民館より老朽化しており危険性が高い。

位置も密集市街地の中で道路も狭いし駐車場も無く、利便性が悪い。

機能は、高齢者関係は、近隣のふれあい朝陽を、他は朝陽小学校で代替可能。

■その他(課題等)

- ・最初の郊外地・中山間地に時間をかけすぎて、市街地の検討があまりできず、結果、4 館のみの廃止にとどまった。特に春木地区は公民館が集まっているので手をつけたかった。
- ・葛城上地区公民館も廃止の候補にあがったが、山手の拠点となる施設が無くなるため、廃止を見送った。
- ・春木地区公民館を廃止し公民館分館の統合も考えたが、堺阪南線で生活圏が分断されており、利用しづらいと考え廃止を見送った。
- ・市街地と郊外地・中山間地の地図が分かれていて、全体的な検討がうまくできなかった。
- ・活動範囲の公民館のことしか知らなかった。
- ・貝塚市と比べて岸和田は公民館が多すぎる。貝塚市は数は少ないが部屋も大きく使いやすそう。

C班

■提案内容

公民館4館を廃止

市街地：春木地区公民館、城北地区公民館

郊外地・中山間地：久米田青少年会館、山滝地区公民館

■主な理由

・まず、老朽度が高い施設の存廃を考え、近隣施設との複合化が可能かを検討した。基本的に、中山間地・郊外地は葛城、牛滝のそれぞれの谷で施設再配置を考え、市街地は人口集中度を重視して考えた。

① 春木地区公民館

老朽度が高く継続しての使用は好ましくないため、同地区の春木市民センター（分館）に機能移転し、統廃合する。

② 城北地区公民館

老朽度が非常に高く存続は困難である。近隣の築年数が新しい新条地区公民館に機能移転し、統廃合する。

③ 久米田青少年会館

老朽度が非常に高く存続は困難である。機能は施設前の道が整備されアクセス性が良く築年数が新しい光明地区公民館と、同じく八木市民センター（八木地区公民館）とに移転、統廃合する。

④ 山滝地区公民館

老朽度が高く、且つ池の埋立地であり立地が悪いため、機能は山直南小学校に移転、複合化する。

■その他(課題等)

- ・市街地では比較的施設が多くある一方、中山間地にはほとんどなく配置状況に遍在性がある。市街地内でも光陽地区公民館と春木地区公民館の間に施設がないが、逆に箕土路青少年会館の位置が八木市民センターと新条地区公民館にかなり隣接している等、地区内でも遍在性が高い。
- ・大沢山荘は公民館でないと知らなかったが、防災拠点としてしっかり維持すべき。
- ・近隣施設の配置状況から箕土路青少年会館の処遇に悩む。5館目の廃止候補であった。
- ・町会館の位置も地図に示すべき。公民館以外での事業展開の候補として見ることができ、効果的な案が出る。

講評（吉弘先生から）



～ 機能整理から再配置シミュレーションまで ～

- これまで通りに施設を単体で存続させるという考えが出なかったのは、総論賛成各論反対となりがちなので、この結果は意外でした。
- 中山間地には公共施設がなく防災面で脆弱という現実があります。あるグループからも意見が出ていましたが、浜手の比較的施設数が多い地域の老朽施設を廃止し、そこから生まれた利益（維持費削減、土地売却益等）によって、山手に新たに防災拠点としての施設を建てるという発想は斬新であり、既成概念にとらわれず良い発想だと思います。（山手で3施設を廃止し、1つの施設として建て替えるという案も出ていた。）
- 市街地での配置状況は、JRや旧国道により、住民の方々にとって心理的にも物理的にも地域を区分する線引きのような印象を持たれることもあると思います。そう考えると、旧国道から浜手の地域に施設が密集しているのは、それぞれの地域コミュニティ施設としての役割を担うという、それ相応の理由があったからだと思います。あるグループでも、利用者は旧国道を越えて行かないという意見が出ていましたので、必然的に地域コミュニティごとの配置となり、再配置検討でもその考えをベースに進められていた気がします。
- 公民館の再配置検討では、公共施設以外（民間）の建物も含めた市内全体の資源の中で総合的に考える必要があると感じました。町会館の利用もそうですし、逆に今ある公民館を地元に譲渡し、地域で運営してもらう案も良い着目点ではないかと感じました。